

藤

へ名にしおう江戸の縁の色濃く浅く 染めて豊けき空の花 へ春日の
森の 木々に添う 姿もあれば三井の庭くねる枝にも馴れて咲く
へ幾重の房のゆんらりゆらり なびく風情は女男の波 その藤波のい
くかえり 寄せて果てなき代々の春 許しの色の沙汰も目出度し